



すとおりい通信

平成 26年
6月号

発行：特定非営利活動法人 STORY 〒1540015 東京都世田谷区桜新町 1-8-6

電話：03-37047344 FAX：03-37047341 mail@story.or.jp http://www.story.or.jp



すとおりい宿泊研修 2014 @ 群馬県川場村

宿泊研修、今年は群馬県川場村に行ってまいりました。正確に書くと川場村にある「あるきんぐクラブ」というところの事前のスタッフの説明ではとにかくご飯が美味しくて 自然が沢山！そこで農作業やら薪割り清流の整備などをするという説明がありました。最初私の受けた印象はなぜそんな遠くまで行って農作業？山小屋？ いやだなあ一行きたくないなあ めんどくさいなあ でした。自然？ 山？ 森林？ 全く興味ないし！！

ですが、偶然宿泊研修の幹事を仰せつかって、しおりに作るのに「あるきんぐクラブ」の事認淑時間ができたんです。

以下、HPより引用) 「あるきんぐクラブ」とは、《森と人との関わり》を大テーマに、年間を通して四季折々の「地に足ついた生活密着型＜自然体験活動＞(仮)」を提供しています。これはすなわち、「食べること」「歩くと」「見ること」「聞くこと」「感じること」「土にまみれてあそぶこと」などなど「自然に生かされている人間本来、生きるうえであたり前にすること。」をやってみることで、『あるきんぐクラブ』には、「キョーイクコ」を目的とした自然体験活動はありません。横文字いっぱいのおしゃれな殺し文句もありません。

私は、上記の説明を読んでだいぶ最初の気持ちより思いが変わりました。実際に現地に着くと目で見て五感で感じることができました。すごく素敵な場所 高い濃い真っ青な澄んだ空 木々の新芽のきれいな色を見上げる なんて美しいのだろう。樹木から差し込む陽光 せせらぎ 鳴き声 風の音 静けさ 森の香り 木々たちに触れる 腐葉土のじゅうたんが敷き詰められている 柔らかな土の上を歩ける贅沢 そんな素晴らしい場所での 畑作業 (今回は花豆の種を蒔いて支柱を立てました。) メンバースタッフ皆で協力し合っの共同作業。一人では決められない、できないことがあつという間にできてしまうすとおりならではの連携プレーと言えるでしょう。力仕事が終わった後近所の温泉で温まり「あるきんぐクラブ」のお母さんみつえさんの手料理のお夕飯 花豆のおこわ ざる豆腐 ウドのきんぴら 筑前煮 から揚げ アボガドのサラダ 糠漬け etc. 普段小食の私でもおなか一杯になるまで頂きました。全てが美味しかったです。感激しましたなかも一杯、あとは静寂な森の中のお部屋で寝るだけ。なんて贅沢なのだろう。

早朝にすっきり目覚め、またまた素晴らしい朝ごはんを頂き、目の作業へ。私は、調理部隊でお昼に皆で焼いて頂くチパーティーの元を練り中身を野外キッチン もちる炊はたき火です。たき火の調理は経験ないので新鮮でした。森林の中オープンキッチン最高。お野菜を洗うのも天然水 お皿を洗うのも天然水 この場所はとても気持ちの良いところ 人間なんでも体験してみなきゃわからないことが沢山ありますね。自然に生かされているのだなという意味が実体験 それは私にとって素晴らしいものとなりました。夏になったら、植木がどれだけ成長したかプライベートで見に行きたいです。

東京に戻った後も普段は足を向けなかった公園に行くようになり大きな木を見るとやはり気持ち良いです。すとおりい提案がなかったらこのような素晴らしい体験は一生できなかったでしょう。感謝です(メンバーさん)

新施設長よりご挨拶

今年度から、職員の中で一番勤務年数が長いということで、施設長を担うことになりました、加藤みお子と申します。今まで、利用者の皆さんと一緒に作業をしていました。しかし、施設長になった途端、パソコンに向かう仕事が変わってしまいました。お店に出る時間もなかなかとれず、お客様と接する時間もほとんどなくなり、さびしい思いも致します。何とも、パソコンの扱いは苦手の部類で、一つを入力するのに時間を要し、経理の高橋さんが自分の仕事だけでも大変なのに、嫌な顔もせずポンポンと手伝ってくれます。どれほどの手を煩わせていることでしょうか。スタッフも、「センターは責任もってやるから自分の仕事をしてください。」と気遣ってくれます。そんなスタッフに支えられて、どうにか役割をはたしているような状況です。

すとおりいでは、前年度から利用者の工賃をアップする取り組みを始めています。今年度も継続していく計画です。しかし、依存症という病気のための回復の訓練と、工賃が上がっていくことで生じる弊害とのバランスをどのように考えていけばいいのか、課題になっています。また、すとおりいは6日通所が原則になっていますが、回復のために利用したいが、6日通所は難しいという方もいらっしゃるという声もあります。この声を活かしていくための取組も検討しているところです。頼もしいスタッフも加わり、新たな体制作りに向けて歩み始めています。今後とも、皆さまのご支援を賜りますようお願いいたします。



山内和秀さん

山内です。最近少し痩せたなど知人に言われます。荷物の配達にバレ練習、筋肉痛が絶えません。ここはガテン系の作業所なのでしょう。身長・体重はサッカーのネイマールとほぼ同じ、50代、吉本新喜劇好きの、タイガースファン。ビッグブックを片手に、キャリアコンサルタントとしての専門性も活かしながら、職業の棚卸しや履歴書・職務経歴書の作成、模擬面接など、就労支援もしっかりとやらせて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。

新スタッフ紹介！

高橋奈七さん



こんにちは。今年の1月にご縁を頂き入社致しました、高橋奈七と申します。

今までいくつかの民間企業で働いてきましたが、依存症の回復施設は私にとって新しい世界であり、人生観を広げてくれます。STORY と出会わなければ、知らなかったであろう事を日々の仕事で学ばせて頂いています。

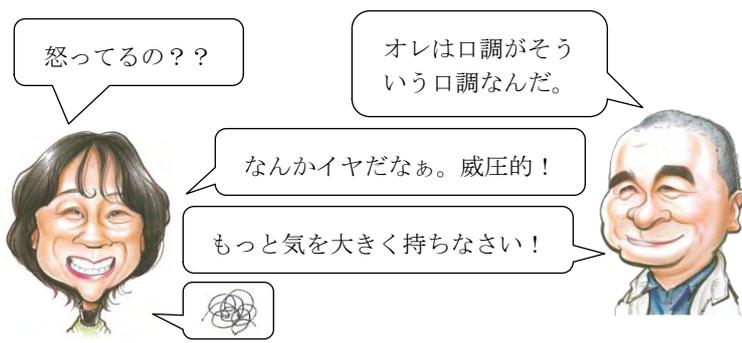
このご縁を大切に頑張っていきたいと思っていますので、宜しくお願い致します。

自主製品だより

先日参加した世田谷区の福祉作業所を対象とした「商品陳列セミナー」で習った“陳列の3原則”「わかりやすい・選びやすい・手に取りやすい」を参考に、すとおりいでは今年度の販売会から少しずつ自主製品の陳列の仕方に工夫を加えています。先日二子玉川 Rise にて開催された「障害者フェスタ」ではイベント自体が大盛況だったことに加え、陳列の工夫もあってかとても売れ行きがよくモノづくりの手ごたえを実感。世田谷区障害者施設ネットワークの新しい名称「世田谷セレ部」とキャラクター「せたぼう」も初のお披露目、とても充実感溢れる一日となりました。ご協賛いただきました GRAN AZZURRI 様、(有)印材舎様、タカハシ接骨院様、(株)ネクストウェブ様、長谷川町子美術館様、菅沼つとむ様、金子様、G様、T様、どうもありがとうございました。



今日の加藤さん達



編集後記

前号の発行からなんと半年以上もの月日が経過してしまいました。その間、スタッフやメンバーの移り変わりあり、ショールームのリフォームあり、すとおりいにも色々な変化がありました。通信は今回から白黒、今後はちょっとボリュームダウンしてもう少しペースよく発行していけるよう体制を整え中…そして今号まで編集を担当してきました金田ですが、心理の道を究めるべく6月ですとおりいを卒業することになりました。生きてくって一筋縄じゃいかない…皆々様からは本当にたくさんのお話を教わりました。どうもありがとうございました！次号からは引き続き久慈と尾身が、日々変化していくすとおりいの様子をお届けしていきます。今後とも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

